



2014 新年のご挨拶



あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

年末に「永遠のゼロ」という映画を観ました。原作もオモシロかったので、楽しみにしていましたが、期待を裏切らない出来でした。

この作品の最重要なメッセージは、「戦争で生き残った者」さらに「それを受け継いでいる私たち」が、どのように生きているのかを自問せよ、です。かつて、自著のあとがきにおいて、「全ての人間にとって、絶対的なものは「死」です。死は必然です。しかし、人間の誕生は偶然です。人生とは、偶然と必然の間を埋める作業ではないでしょうか。」と書いたことがあります。歳を重ねるに従って、この思いはますます強くなっています。「永遠のゼロ」は、そのことの再認識を迫る作品でした。

自己とは、他者との触れ合いの中で、相対的に形成されるものだそうです。「生」も、「死」との関係において反照的に意味を持つものだと考えています。

どんな思いで「死」を迎えるのか？それは、日々の「生」によって決まるのではないのでしょうか。

胸を張って、「いい人生だったなあ」と言って、死を迎えたい。いつのまにか、これが自分の行動原理となり、ここ数年、この思いがますます強くなっています。

考えてみれば、今年2014年は、数えて60歳を迎えます。「還暦」とは「暦が還る」という意味で人生をリセットする歳とも考えられます。もう一度自分の生の原点を考え、悔いの無い人生を送りたいという思いを新たにしています。

昨年、私にとって最大の出来事は、「静岡知事選出馬」でした。結果は歴史的な大敗でした。結果が出た後、周囲からは慰めの言葉ももらいましたが、なぜか本人には敗北感がありませんでした。出馬する際、「最後まで余力を持ち、冷静を通す」という目標を達成できたからです。あの狂奔の期間に、それを貫き通すのは中々大変でした。「余力を残す」ためには、「全力で戦う」必要がありました。このパラドクスについては、我ながら「良くやった」と感じています。「悔いの無い人生」という規準に照らし合わせれば、「後悔は全くない」と今でも思います。「反省」はしますが、「後悔」のない人生を生きる。これが私にとって、「偶然」から「必然」に辿り着く間のモットーです。今年もこうして生きる以外に自分の生は無い、と確信しています。

多摩大学を辞する際、最後の講義で、「幸福」について次のように述べました。幸福の条件は、「自分がしたいこと、できること、すべきことの3つが重なること」です。「したいこと」と「できること」が重なることは嬉しいことですが、それによって得られる満足は、「幸福」には足りません。「すべきこと」が何かについては様々ですが、「すべき」であるための条件は、「周りを豊かにすること」です。これらの3つが重なる時に、「悔いのない、豊かな生」を実感できると考えています。

知事選のあと、多くの方から「これからどうするの？」というご質問を受けました。「背水の陣」で戦うべく多摩大学を辞したため、多くの方が心配して頂いているようです。これまでは明確な回答ができませんでした。実は、現在になっても明確なお答えができず、申し訳なく思っています。予定としては2月末までに、本年の基本的な立場が明確になるはずで、決まり次第、このホームページ上で明らかにするつもりです。

最後になりましたが、今年が皆さんにとって、「悔いの残らない良い年」になることを祈念しております。

2014年 元旦

スポーツ総合研究所株式会社 所長
特定非営利法人スポーツマンシップ指導者育成会 理事長

たけし

